

名称	説明	只見	奥三面	羽村	沼津	徳山	滋賀	鹿児島	沖縄	さまざまな呼称	備考
養蚕用具											
神野善治											
飼育用具											
 さんらんし 蚕卵紙	蚕の卵を、和紙を貼り重ねた厚紙に産ませたものが養蚕農家に販売された。低温で保存し、時期がくると温めて孵化させた。蚕の卵は植物の種子に似ているので「種」と呼ばれ、共同の養蚕組合などにより専門に生産された。1枚の種紙を20くらいの方眼状に区分してタネ（卵）を産みつけたものと、全体をひとつの楕円形に産み付けてあるものがある。卵を孵化させるには「催青」という作業をする。	コダネガミ、コダネイタ		ワケセ、タネガミ						【蚕卵紙】こたねがみ・たねがみ 以上、【標準語引分類方言辞典】（東條操編）	
 はきたてばうき 掃立箒	蚕の卵から孵化する小さな幼虫（毛蚕＝ケゴとか蟻蚕（ぎさん）と呼ばれる）を注意深く種紙から払い落とすために鳥の羽根で作った箒。	ハネ		トリッパネ、ハネボウキ						【蚕卵紙から掃き立てる時に使う羽箒】けごばーき 以上、【標準語引分類方言辞典】（東條操編）	
 かいこぼん 蚕盆	蚕盆。直径35cm内外の円盤状の木皿。底は平らではなく弧を描く。紙で作ったものはカルトンなどと呼ばれる。	アゲボン		カイコッキ、ハチ			カルトン	ケゴバラ			
 かいこかご 蚕籠	蚕座籠とも。蚕を飼うときの座として使う平たい籠。比較的大きな六つ目に編んでいるものをよく見る。長方形が一般だが、地域的にまた時代により円盤形が使われてきた。周囲に若干の縁が付けられている。	ワラダ、コカイカゴ、ジョウソクカゴ		カイコツカゴ		コブラ、ヨオザンカゴ	カイコカゴ	ケゴバラ、ハジマユバラ		【蚕座用籠】かごろじ・ざる・ろじ 以上、【標準語引き方言辞典】（佐藤亮一） 【蚕座】えぎら・えびら・こしき・ことご・さんだ・みなが【蚕を飼う籠】せべ・ほっぽ・えーが・こぎやーかご・せめ 以上、【標準語引分類方言辞典】（東條操編） 【蚕籠・蚕座籠】エビラ・エギラ・ワラダ・サンバク（川越市） 以上、神野善治	
 かいこむしろ 蚕筵	蚕籠に敷いて、その上で蚕を飼うための筵。蚕籠とほぼ同じ寸法に作られる。ワラダなどと呼ばれる円形の蚕籠では、藁などで作った円盤形の敷物が用意され、これがワラダと呼ばれていたりする。			カイコムシロ			カイコムシロ			【蚕筵・蚕筵】オカイコムシロ 以上、神野善治	
 くわぎりぼうちよう 桑切り包丁	蚕の餌である桑を細かく刻むときに用いる平たい板状の包丁。刃の背は真っすぐだが、先端がややカーブする。形態的に「豆腐包丁」に似ているが、豆腐包丁は刃の形が長方形に近いのに対して、桑切包丁は先端がやや尖る。	クワキリボウチョウ				クワキリボウチョウ	クワキリボウチョウ	クワキリボウチョウ			
 くわぶるい 桑篩	蚕の餌にする桑の葉の大きさを揃えるのに用いる篩。籠状で大小の網目を寸法ごとに幾段階も用意して、稚蚕の段階から成長するにつれて、刻んだ桑の葉の細かさを調整する。										
上蔭用具											
 まぶし 族	蚕が4回の眠を終えて、繭をつくる時期（熟蚕）になると、小さな仕切り（寝床）をたくさん用意した枠組に入れる。萩の枝や藁などで作られたものや、ボール紙で枠組を組んだものなどさまざまな素材で作られてきた。蚕の習性を利用して、まぶしの全体にたくさんの蚕が均等に繭をつくるように回転させる方式の「回転族」が工夫された。	マブシ		セントウマブシ	モズ		マブシ、スゴ、シク	マブシ		【族（まぶし）】こす・こて・しく・すく・むかで・もず・やま・つとこ 以上、【標準語引分類方言辞典】（東條操編）	
 かいてんまぶし 回転族	蚕の習性を利用して、まぶしの全体にたくさんの蚕が均等に繭をつくるように回転させる「回転族」が工夫された。			カイテンマブシ	カイテンモズ		カイテンマブシ				
 きゅうそうだい 給桑台	蚕を飼うときに蚕籠を乗せて餌の桑の葉を与えたり、糞を掃除したりするときに使う蚕籠を1枚ずつ乗せる台。細い棒で造った木枠を二つ「X字」にあわせ、開いたときに紐で固定する。	キュウソウダイ、コガイバコダイ		キュウソウダイ、クシダイ	ダイ、クワダイ		キュウソウダイ	キュウソウダイ		【給桑台】カゴダイ（川越市）	
 かいこあみ 蚕網	蚕を飼う時に用いる粗い網目の四角い網。両端に支えの棒が付く。籠の蚕に被せて、その上から桑の葉を与えると網の目から蚕が網の上に出てきて下に食べ残した桑の滓と糞が残り、掃除を容易にする。	カイコアミ		ワケアミ、イトアミ	アミ	カイコアミ、ミアミ、フリアミ	カイコアミ	ジョサアミ、イトアミ		【蚕網】イトアミ（埼玉 川越市）	
 りゅうきゅうあみ 琉球網	蚕を飼うときに用いる琉球蘭の茎で編んだ四角い粗い網。			リュウキウ			X			【琉球網】リュウキウ 以上、神野善治	
 くわつみつめ 桑摘み爪	蚕の餌にする桑を摘むときに指先に嵌めて、葉を摘みやすくし、かつ指先を守る爪状の金具。同じ目的で小さな皮袋を使うこともある。	クワツツメ			ツメ、クワツツメ			クワツツメ、クワツツメ、スキ、クワコギ			
 くわつみかご 桑摘み籠	蚕の餌にする桑を摘んで集め、運ぶ籠。小型の腰籠状目に編んだもの、籠目に編んだものなど。	クワツリハケゴ		カマザル			クワカゴ、クワツミカゴ	クワツミカゴ、クワツミテゴ、クワメゴ、クワカゴ		【桑の葉を入れる籠】くわぼて・ぼて・ぼぼら・まかた 以上、【標準語引き方言辞典】（佐藤亮一）	
 くわこき 桑扱	桑の葉を枝から扱き取る道具。先がやや尖った平たい2本の金具をからめるように噛み合わせて、その隙間に桑の枝を挟んで扱くと葉だけそぎ落とされる。金具だけでできて手で持って使うものと、木の台に立てたものなどがある。後者をクワバサミと呼び分けているところ（川越市）がある。	クワコキ		クワコキ	クワコキ			クワコギ		【桑扱】クワコキ（桑扱機・桑扱器）・クワバサミ 以上、神野善治	

※備考欄にはあなたの地域の呼称を記入してください

名称	説明	只見	奥三面	羽村	沼津	徳山	滋賀	鹿児島	沖縄	さまざまな呼称	備考
 さいせいばこ 催青箱	蚕の卵が孵化するよう促すために蚕卵紙(種紙)を温める箱状の装置。箱の造りは様々だが、細木の枠に和紙を張った簡単なものは火床に乗せて用いる。種紙を並べて、蓋をして下に熱源を据えられるようになった箱などもある。				サイセイバ コ						
 がりん 蛾輪	蚕蛾にかぶせて、蚕蛾が一定の場所に産卵するようにする輪。金属製など。台紙にする厚手の和紙の全体に一つの輪を置いて、何匹もの蚕蛾を入れて産ませるものと、小さな輪を並べて一つの輪に1匹の蛾を入れて産ませるものがある。小さいものは1枚の台紙にタテヨコ合計20個余り並べる。生み終わったものを種紙という。										
 かいごだな 蚕棚	蚕を飼うときに家の中に組み立てる棚。鋸歯のように側面に溝を刻んだ板状の柱と、この溝に渡して棚にする竹竿などで構成され、薬縄などで縛って組み立てる。この棚に蚕籠(蚕座籠)を何枚も刺し入れて蚕を飼う。この棚の工夫で室内で大量の蚕を飼うことができるように工夫されている。	カイゴダナ		サンダン	タナ、カイ ゴダナ		カイゴダ ナ、サンザ				
 まぶしおろき 簇織機	葉で簇を織るために工夫された装置。方式は幾通りもあり、発明品として登録されているものもある。	マブシオリ キ			モスオリキ	オリワラ キ、マブシ オリキ	マブシアミ キ、シクオ リキ	マブシツク リ、マブシ マゲ		【簇織機】マブシオリ 以上、神野善治	
 けぼとりき 毛羽取機	繭の出荷前に表面の毛羽を取るために工夫された機械。ハンドルを回すと繭を乗せた部分に振動が与えられて繭が踊るように動き、繭の回りについている毛羽をひっかける場所があつて、繭の表面をきれいにする。	ケバトリキ		マユカキキ		ワタトリ ワタトリキ		マユノケバ トリ、マユ ノフケトリ		【毛羽取機】ケバトリ 以上、神野善治	
 まゆかご 繭籠	繭の出荷時に大量の繭を運ぶ巨大な籠。よく見られるのは六つ目の円筒形の籠。繭は、ダイカイと呼ばれる大きな紙袋に入れて籠に入れられる。					マイカゴ タケカゴ メカゴ					
 ようさんひばち 養蚕火鉢	寒くなる時期に、蚕室の保温に使う蚕専用の火鉢。	ダンロ				カイコヒバ チ					
 くわきりばさみ 桑切鋏	蚕の餌にする桑を刈るための鋏。両手で使う。庭木用の剪定鋏とはほぼ同形。				クワキリバ サミ		クワキリバ サミ	クワキリバ サン			
 くわきりがま 桑切鎌	蚕の餌にする桑を刈るための鎌。枝桑刈いのときに用いる。刃渡りが短く、柄にすべり止めが付くものがある。	クワキリガ マ		クワキリガ マ			クワカリガ マ				